

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072900378		
法人名	医療法人 寿栄会		
事業所名	グループホーム 笑顔		
所在地	福岡県小郡市三沢528-3		
自己評価作成日	令和1年10月1日	評価結果確定日	令和1年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和元年 11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

GH笑顔では目標を「利用者さんがのんびりと楽しく過ごしていただけるように、環境を整え、寄り添い、共感し、利用者さんそれぞれに合わせた介護」としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

H17年2月8日に開設されたグループホーム「笑顔」は、JR基山駅・西鉄小郡駅から車で5分、鳥栖インターから車で10分と交通の便もよいが、周囲は静かで落ち着いており、同グループである本間病院の敷地内の一角に位置する2ユニットの事業所である。平屋造りで1ユニット毎に独立、天井も高く明るい雰囲気、居心地のよい空間となっている。本間病院は急性期や長期療養型を擁しており、連携体制も万全で医療面においても安心して過ごす事ができる。食事は職員が施設で調理しており、温かく家庭的な食事で、好き嫌いがなくなった利用者もいる。コスモス・バラ・あじさいなど、外出支援にも力を入れており、利用者の楽しみとなっている。年3回家族会を開催し、家族との繋がりが深い。家庭的で温かい雰囲気の中で、利用者や家族が安心して過ごせるよう支援を行っている。地域を支える介護事業所としての発展が、今後も大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各自名札の裏に、理念、目標を入れ毎朝朝礼時に唱和し共有を図っている。唱和することで常に振り返ることができ、自己を省みる機会となっている	開設時に施設独自の理念を施設長が作成した。ユニット毎の玄関・スタッフルーム・面談室に理念を掲示している。毎朝朝礼時に理念を全員で唱和し、どうすればいいか迷った時理念に基づき判断をしている。理念を基に個人の目標を作成し、年2回の面談にて振り返りを行っている。全体の目標は年1回作成し、反省や意見を踏まえながら、年度末に毎年作り直しをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(初午祭、夏祭り等)入居者様と参加し、寿栄会の夏祭りや地域感謝祭には地域の方々をお呼びし交流している	7月にある地域の夏祭りで、職員が踊りを2曲披露した。また、小学校区内である秋祭りに招待してもらい、子供たちの太鼓の演奏を見て、利用者はとても喜んでた。施設のクリスマス会では、ボランティアでギター演奏をしてもらったり、中学校の職場体験を、2日間受け入れるなど、地元の活動や地域の住民との交流に、積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポート研修参加や認知症相談窓口を設けている。老人会で認知症に対する勉強会等に参加し、施設長が講演も行われている(3~4か月に1回)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くの方が参加しやすいように、日程調整や日程を考慮し事業所の行事、や運営状況報告、地域の行事、情報等活発な意見交換をおこなっている	運営推進会議には、理事長・副理事長・市の介護保険課長・老人会会長・区長・家族代表・管理者・ケアマネジャー・職員代表が出席している。参加者からは地域の1人・2人暮らしに声をかけて欲しいとの意見が出たり、施設からは何かあったら相談して欲しいとの要望を伝えるなど、双方向的な会議となっている。会議の後は手作りのお菓子を提供し、ゆっくりと話ができる機会を作っている。また他施設の運営推進会議の様子を聞き、参考にするなど、有意義な会議になるよう努力をしている。	今後は運営推進会議を家族会の日程に合わせるなど、家族が参加しやすい工夫をしてみてもどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小郡市の介護保険研修に参加している。市の職員さんに運営推進会議に参加していただき、サービスに関する問題などについて相談している	介護保険の申請は基本的には家族が行っているが、行くのが難しい方は、職員が代行申請を行っている。市から研修案内があり、1・2ヶ月に1回、管理者やケアマネジャーが参加している。空室がある時は、周囲の施設に挨拶に行くといとの市役所からの助言を受け、実際に行ったところ、入居に繋がった。その後市役所から経過を確認する電話連絡があるなど、市役所に相談しやすい関係を築く事ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会を通じて、身体拘束に関する認識を深め、状況に応じては家族に相談をすることもある。また併設病院の売店に単身で買い物に行く入居者様も居られる、日中、玄関の施錠はしていないので、自由に入出りができる	外部研修に参加したり、月4・5回の内部研修会では必ず月1回身体拘束を取り上げ、理解を深めている。台所の前を通らないと外に出る事ができない為、外出時は気付きやすく、気になった時は職員が声をかけている。声のかけ方も、拘束的な言葉は使わず、「どこに行くのですか」など、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援できるよう努めている。	

2019.11自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止フォーラム等に参加し、スタッフ間でも勉強会を行い、入居者様同士のトラブルに発展しないように努めている。またスタッフ間でも情報共有し理解を深め権利、侵害等無いように努めている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時、家族への制度の説明をしている。相談があれば、そのつど対応している、スタッフはいつでも対応できる姿勢でいる	現在、成年後見人制度を1名、日常生活自立支援事業を2名利用している。外部研修への参加後は、施設内で伝達講習を行っている。分からない事があれば市役所に相談をしたり、後見人に直接聞く事もある。支援を行った時は、内容や手順を他職員にも伝え、情報を共有し、全ての職員の理解が深まるよう努めている。	今後は権利擁護に関するパンフレットなどを玄関に準備しておくなど、家族が制度を理解したり関心に繋がるような工夫をしてみてもはどうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い不安や疑問点についてはより詳細に説明をして理解していただいている。その後の疑問や質問についてはその都度説明をしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内の相談窓口を明確にしており外部での相談窓口ポスターも掲示している。家族の訪問時はコミュニケーションを図り、意見をひきだしている。家族会を定期的に開催し意見や要望を聴いている	年3回、家族会を開催し5~8世帯の参加がある。家族会で話し合った内容は、書面を作成し、全家族に渡している。年1回、満足度などを問うアンケートを実施後、集計し、家族会で報告書を提示している。家族から職員の名前と顔が一致しないとの意見を受け、名札を作ったり、玄関に顔写真と名前を掲示するようにした。全家族とも支払いを持参しており、家族とゆっくり話をする機会がある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営について困難が生じた場合、その都度意見や提案を聴く機会を設けている、その他意見・提案を寿栄会の役員に述べる機会を設け反映されている	年2回ユニット合同での運営会議と、年2回管理者と職員との個人面談がある。週1回の勉強会でも意見を言う機会があり、欠席の職員から事前に意見を聞き取っている。レクリエーションで使用したい備品があり、すぐに準備をもらう事ができた。日頃から管理者に相談できる雰囲気があり、管理者を通じて役員に意見を伝える事もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は個人目標をもとに個人面談を行い、人事考課を本部に提出し、昇進、昇給等に反映している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層が勤務している、職員募集にも年齢、性別を理由に採用対象から外すことはしていない。人間性重視の採用をし、無資格者には資格取得を目指し休日の調整や先輩スタッフからの指導、教育などホーム全体で協力している。資格取得後は給与に反映され、意欲をもって働けるように配慮されている	20代から60代と幅広い年齢層で、男性職員は1名のみで女性職員が多い。休憩時間もゆっくりとれており、休憩場所も確保されている。積極的に職員の資格取得や、実践者研修などへの参加を勧めている。研修の案内も個別に勧める事もある。レクリエーションやパソコンなど、各々の職員が得意な分野で活躍する事ができている。	

2019.11自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が小郡企業内人権同和問題研修推進委員会のメンバーであり、年に2から3回の研修に参加している、入職時に理念、人権啓発、尊厳、人間尊重の意識付けを行い、個人情報、守秘義務の遵守について説明を行うなどの職員への人権教育をしている	病院長が同和問題研修委員会のメンバーであり、年2・3回の研修には、3・4名の職員が参加している。虐待の研修の中に人権に関する内容も含まれている事が多く、外部研修への参加後は、伝達講習や資料の閲覧、その内容を基に内部勉強会を実施している。外部機関から人権教育に対するDVDの貸出予約をしており、意欲的に人権教育に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設病院に人材育成室があり、レベルに応じた研修へ参加し学んでいる。介護支援専門員、介護福祉士、認知症実務者研修等希望者には研修を受ける機会もある。研修の情報提供もしている。市や医師会の介護研修や併設病院の研修にも参加している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケアシステム研究会、小郡キャラバン隊研修や小郡三井地区介護保険研修会へ参加し、他の施設や同業者と情報交換などの交流をしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式のアセスメントや日々の生活の関わりの中で、会話や表情から入居者様の希望や意向の把握に努め、主治医、家族にも相談している。意思疎通の困難な入居者様には家族や関係者からこれまでの暮らしや生活歴等の情報を得ようとしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が来所された際、一緒にお茶を飲みながらレクリエーションなど参加していただき雰囲気を感じてもらおう。入居者様が一日でも早く馴染んでいただくよう、スタッフは他の入居者様も含め馴染みの関係を築けるよう援助する。何事も事前にご家族と話し合い家族の意向に近づけるよう努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者や家族の意向を聴き、計画作成担当者を中心にスタッフで話し合い介護計画を作成している。家族の意見も反映した計画であり、作成後は家族へ説明を行っている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様から生活歴、特技、趣味などを生活の中に組み込み、人生の先輩として意見を聞きアドバイスを委ねることもある。時には入居者様から言葉をかけてもらい元気をいただいている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族に近況報告をしている。奇数月には「家族会」を開催し屈託のない意見交換をしている。また無理の無いような外出・外泊も勧めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の夏祭り、敬老会などの催しに参加したり、外出やレクリエーション等で馴染みの場所へ出かけている。面会時間は制限を設けておらず、入居者様は地域への外出や家族の面会を楽しみにしている。	馴染みの人や場所を、見学時や入居時に本人や担当ケアマネジャーから聞き取っている。初午祭や夏祭りは、地域で有名な神社でも催されており、利用者の楽しみとなっている。月1回、以前のサークル仲間の面会がある方もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に孤立しないように、ホールで活動したり、話題の提供で会話を楽しんでいる。スタッフは入居者様が馴染みの関係を築けるよう支援をしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設病院や協力病院に入院した入居者様には面会をしたり家族に状況を尋ね、必要な援助を行っている。家族が不安を抱えている場合は話を聴き安心できるような声かけを行い信頼を得ている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントや日々の生活の関わりの中で入居者様の会話、表情からニーズを把握するよう努めている。会話の中で本人がどのような生活を望んでいるか尋ねている。意思疎通の困難な入居者様については、家族、関係者から情報を得ている。	センター方式や施設独自のアセスメントを使用している。ケアマネジャーが作成しているが、担当職員の意見も反映している。基本的には3ヶ月毎であるが、介護保険の認定更新時や状態変化時にも見直しを行っている。入居時は24時間生活シートを1週間実施、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や友人、病院などから生活歴、これまでのサービス利用の情報を得て、施設でのサービスに活用している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を記録に記載し、一人、ひとりの状態の把握と継続介護に生かしている、また記載することで、新たな発見や心身の状態を把握することができている		

2019.11自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人や家族の意向を聴き、計画作成担当者を中心にスタッフで話し合い、介護計画を作成し、本人家族にも説明を行い同意を得ている。	介護計画の短期目標は3ヶ月、長期目標は1年の期間で、モニタリングは3ヶ月に1回、ケアマネジャーが作成している。担当職員や家族、他職種の意見を反映させ、原案の状態で職員に確認をとり、その後決定している。年1回、課題整理統括表を作成し、現状の把握を行っている。	今後はケアプランが見やすいような綴り方や、ケアプランが実施できているか振り返りやすい介護記録の記載方法について、工夫してはどうだろうか。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。状態が変化した場合は、家族や関係者間で話し合いを行い現状に即した新たな計画を作成している。個人日誌に気づきや工夫を記載し伝達、共有、評価、見直しに活用している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に応じて、病院受診時の付き添いや入居者様のその時々希望や要望に応じて、美容院やショッピングなどの外出への支援などを行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1度、運営推進会議を市の職員さん、区長、老人会長、民生委員の方々に協力を得て行っている。地域の方々からの情報交換で花見に行ったり地域イベントに参加するなどの活動をしている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診はかかりつけ医へ家族同伴の継続的な受診を推奨しているが家族より併設病院へ変更を希望される事が多い。看護師が1名常勤しており入居者様の健康管理や往診時の診察の補助を行っている	同グループの病院が敷地内であり、半数の方は職員が付き添い受診をしている。同病院から訪問診療にて対応している方もいる。同病院の外来看護師とも連携を図っている。受診内容は面会時や電話で家族に報告しており、職員間でも情報共有ができています。4名の方は以前からのかかりつけ医や専門医を、家族の支援を受け受診している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わり、健康管理での気づきを併設病院の外来看護師へ報告し内科担当医師へ判断をおおぐ。早期発見早期治療に留意している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院へ内科・精神科で外来受診している。状態悪化時は入院も可能である。通常より外来、病棟と連携をとっており、より専門的治療を必要とする転院を要する場合、医療連携室と連動しスムーズに転院が行えるようサポートしている。本人・家族の精神的不安の軽減なども行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重症化した場合についての対応を確認し説明している。家族の意思も確認している。できる限り対応しているが医療が必要と判断された場合は家族、主治医、看護師が話し合い、家族が納得、理解されるまで何回も話しをして、家族が希望する病院へ入院となるように支援している	現在看取りはしておらず、入居時に看取りは行っていない事を家族に説明し、同意を得ている。緊急時の対応方法については家族の意向を踏まえ、十分に家族と話し合いながら、家族が納得できるよう取り組んでいる。看取りについてどうするか検討中である。	

2019.11自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時手順を掲示しスタッフ間で周知できるようにしている。緊急マニュアルに沿って入職時説明を行い必要に応じ勉強会を開催している。併設病院での研修(AEDの使用法、救急蘇生法)に年1回参加している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	初期消火、避難誘導、通報訓練など年に3から4回行い消防署の立会いのもと指導を受けている。併設病院の多目的ホールが市の福祉避難所に指定されている為、そこまでの避難訓練も行っている。年末には地域消防団とも交流し巡回等もお願いしている	毎回、消防署の立ち会い、同グループ病院の職員も相互参加をしている。出火元や他施設職員に間取りを知らせるなどの助言があった。夜間想定訓練も実施しており、職員も交代で参加、全職員が緊急時に対応できるようにしている。同敷地内のグループホームの当直は男性職員で、緊急連絡先にも入っており、さすまも準備している。病院に3日分の備蓄品があり、必要時には提供を受けるようになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の理念に「尊厳ある生活ができるように支援する」と明記している。入居者の誇りやプライバシーを損ねる事の無いように留意している。夜間のみ居室で使用しているポータブルトイレは日中は居室には置かないよう配慮している。個人記録は事務所で記載し鍵をかけ保管管理している	入所契約時に、写真使用にあたって、個人・集団とも各々の同意を家族からとっている。接遇マナーについては、同グループ病院の研修で全職員が参加しており、内容の理解もある。配慮に欠ける発言があった場合は、その都度管理者が注意や指導を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定期的な食事会を催し、おやつ等は入居者様の好みに合わせた希望の献立を提供している。昼食はスタッフも入居者と一緒に食べ和やかな雰囲気や楽しく会話が弾んだりの喫食時間を過ごしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床時間や食事、入浴に時間の制限は無い、その方のペースを大切に、何事も強制しない支援をしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の生活歴からあるいは家族から聞き好みの服を着ていただいたり、お化粧の声かけをするなどの支援も行っている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度、入居者様の希望を聞き献立を考え、スタッフが食材を購入し調理をしている。入居者様方は下ごしらえや食器洗いや、おやつ作りなどスタッフと一緒にいる。スタッフも入居者様と同じものを同じテーブルでいただき会話も弾み楽しい喫食の時間を過ごしている	食材は同グループ病院にて一括購入、調理は施設職員が行う。月1回は値段を気にせず、利用者が本当に食べたい物(刺身・鰻など)を献立にしている。年2回はお弁当におかずを詰め、外で食べる機会を設けている。入居後、好き嫌いがなくなった利用者もおり、家族が驚く事があった。2ヶ月に1回、利用者の好みの洋菓子を職員が準備したり、昨年は干し柿作りを行った。家庭菜園で利用者と一緒に栽培・収穫、収穫物は食事の中で提供している。	

2019.11自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に併設病院の管理栄養士がカロリーを計算し献立を考えている。入居者様の嚥下状態に応じて刻み食、ペースト食を作り対応している。毎日食事、水分摂取量をチェックし記録している。必要エネルギー量の少ない方には家族と相談して栄養サポート食なども使用している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけを行い、歯磨き実施、入居者様の状態に応じ介助している。義歯は就寝前に預かり夜間に洗浄消毒をしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンにあわせ排泄誘導を行っている。尿量に応じはくパンツ、パッド類を選択し使用している。オムツの使用法が適切かどうか日常的に評価を行っている	排泄パターンに沿って排泄誘導する事で、失禁の回数が減少したりパッドを外すなど、改善がみられた利用者もいる。使用しているパンツ・パッド類が適切かどうか、気付いた職員が担当職員やケアマネジャーに伝えたり、職員で話し合う機会がある。15時のおやつ時間に、それぞれの利用者合った温度で温めた牛乳を、全員に提供している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響など理解し、便秘予防で適度な運動、十分な水分補給(時には個人の好まれる飲み物などの提供)、腹部マッサージなど行っている個人に応じた緩下剤も医師の指示のもと使用している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週3回としているが、希望される方は毎日でも可能である。入浴時間などの制限などはなくゆっくり入浴できるようにしている。拒否のある方は無理の無いように声をかけ気分を変えて入浴していただいている	週3回利用者に合わせて、午前・午後に関わらず、4・5名ずつ個浴をしている。本人の希望があれば、利用者2人で行ったり、本人1人で行入る事も可能である。1人で行入る時は、途中で様子を見に行き安全を確認している。浴槽をまたぐ動作をみる事で、身体機能の確認をしたり、皮膚を観察するなど、状態を確認する機会としても生かしている。家庭で入浴しているような雰囲気になるよう心掛けている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分な睡眠が取れるように、日中は適度な運動や散歩。外気浴、レクリエーション等を日替わりで行っている。居室の温度調整や個人に合った寝具も家族に相談をし揃えていただいている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方、薬の効果、副作用、飲み合わせなどの勉強会を開いている。処方の変更は体温表に記載し、全員が把握できるように申し送る。大きな錠剤等は粉状にして飲み込みやすくし服用後口腔内の確認を行っている。また異常の早期発見目的もあり毎朝バイタルサインのチェックもしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣味・特技など把握し、食事作り、後片付け、生け花、草取り、乾いた洗濯物の片付けなどちょっとした家事など会話も楽しみながら気分転換をしながら行っている		

2019.11自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設病院のグラウンドが隣接しているので日常的に散歩をしている。病院の売店に出かけたり、月に1回の外出レクや家族との外出・ドライブなどは比較的頻回に行われている	年4・5回、コスモス・あじさい・バラ・ツツジなど、2ユニット合同にて7・8名ずつ花見に出かけている。花見の後にショッピングモールのフードコートで、食事をして帰る事もある。地域のコミュニケーション施設にお弁当を持参し、広いスペースでレクリエーションを行っている。近隣の方が花を植えてくれたり、鶏小屋や水田も近く、季節感を楽しみながら、散歩を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望に応じ各自がお金を所持できるように支援している。買い物や外食時、本人が欲しい物を選んだり食べたりできるように支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じ自ら電話をかけ、家族や友人と話することができる。希望される方には年賀状を用意したり手紙を書く支援もしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは中庭に面し間取りも広く明るい作りである。天井も高く圧迫感を感じない。ユニットを仕切っているドアを開放すると空間が広く感じゆったりできる雰囲気である。また玄関やリビングには季節の花を飾り季節感を味わいBGMが流れ居心地良く過ごせるように配慮している。中庭には季節ごとに花が咲く木を植えている	室内に花を飾ったり、利用者が作成した季節に合った作品を掲示している。アイランドキッチンにて、利用者との距離も近く、調理も手伝いやすい状況で、家庭的な雰囲気となっている。テラスも広く、外でお茶をする事もある。畳の上がりスペースもあったり、共用のトイレも4ヶ所あるなど、落ち着いて居心地よく過ごせる共用空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに食事時のテーブル、ソファや畳を設置しているので入居者様が自由に使用できるように工夫している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンスは施設が準備している。入居者様が使い慣れたテーブルや椅子、仏壇など置かれレクリエーションで作った作品や写真、アルバムなどで家族の協力のもとレイアウトした個性が出ている居室になっている	仏壇・ドレッサー・一人掛けソファなどの、思い出の品々が持ち込まれている。今までの動作や習慣に合わせて、ベッドや家具の位置を配置している。清潔感があり、利用者が落ち着いて過ごせる居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視力がやや悪い方も分かる字でトイレや居室(家族に名前を出す事了解していただき)をアピールしている。壁には持ちやすい大きさの手すりがついているので足取りが少々悪い方も、手すりを握り進むことができる。レクリエーション時は個人の趣味を生かしたものを取り入れ一緒に取り組むなど行っている。センサーマットを使用する方も居られる		